

知的障害児教育における儀式行事の視覚支援

佐原 恒一郎^{*1}

＜概要＞特別支援学校における視覚支援教材の効果について、2014年度末と2015年度初頭に特別支援学校教員に対して調査を実施し、検討した。視覚支援の手立てについては高評価であったが、実際に児童生徒が注目しているかについては「どちらともいえない」の回答が半数近くを占めた。このことは、行事における視覚支援を行う上での重要な示唆を示している。

＜キーワード＞特別支援教育、視覚支援、教材研究、情報教育

1. 目的

近年、特別支援教育では入学式などの行事で進行状況や内容を理解しやすいように大型ディスプレイやプロジェクターなどによるスライドを用いた視覚支援を取り入れる例が増えている。しかし、その効果や課題について検討された研究はきわめて少ない。

本研究は、儀式行事で視覚支援を行った特別支援学校教職員に対して調査を実施し、効果と課題について検討するものである。

2. 視覚支援教材

行事で使用した視覚支援教材はMicrosoft Power Point2013で作成された。体育館で液晶プロジェクターを使用して投影して児童生徒に提示された。教材として考慮した配慮点は以下のとおりである。



図1 スライド1

- ①体育館で液晶プロジェクターを使用しての投影のため、明度・彩度ともに不足がちであるため、弱視児者に対して使われる、濃紺の背景に、白あるいは黄の字を使用した。(図1)
- ②漢字にはふりがなを振った。(図1)
- ③歌は平仮名表記で分かち書きにした。(図2)
- ④白字の行と黄字の行を交互に表示した。(図2)

- ⑤左に時系列の式次第を表示した。また、式が進むに従って現在行われている内容が最上段に表示されるようにした。(図1・2)
- ⑥イラストはアニメーション効果を用いて表示した。(図3)
- ⑦文字は、基本的に一斉表示した。(図3)

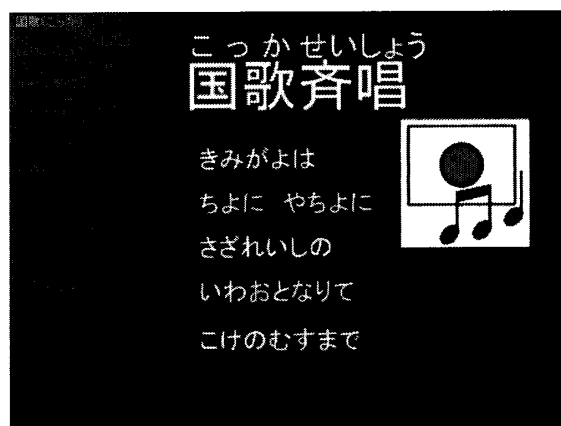


図2 スライド2



図3 スライド3

3. 方法

千葉県内の知的障害者の教育を主とする特別支援学校教職員を対象に、選択式および自由記述による調査用紙を配布し、回収した。

^{*1} Sahara Koichiro : 千葉県立矢切特別支援学校

E-mail: teketeke@nifty.com

表1 調査1 設問1～4

設問番号	設問1			設問2			設問3			設問4		
設問	児童生徒は視覚支援のスライドに注目していますか？			見やすいように背景は暗青色、文字は白と黄を使用していますが、このことによって児童生徒は文字が見えやすいと思いますか？			文字は読みやすいように、行ごとに白と黄を交互に表示していますが、このことによって児童生徒は行が分かりやすいと思いますか？			文字にはふりがなを振っていますが、このことによって児童生徒は読みやすいと思いますか？		
回答	はい	いいえ	どちらともいえない	はい	いいえ	どちらともいえない	はい	いいえ	どちらともいえない	はい	いいえ	どちらともいえない
合計	30	4	31	57	0	7	40	1	25	49	5	12
割合	46.2%	6.2%	47.7%	89.1%	0.0%	10.9%	60.6%	1.5%	37.9%	74.2%	7.6%	18.2%

表2 調査1 設問5～6

設問番号	設問5-1			設問5-2			設問5-3			設問6		
設問	児童生徒が注目するようにアニメーション効果を取り入れています。このことについて以下の各項目をどのようにお感じですか？ アニメの動き			児童生徒が注目するようにアニメーション効果を取り入れています。このことについて以下の各項目をどのようにお感じですか？ 画像の大きさ			児童生徒が注目するようにアニメーション効果を取り入れています。このことについて以下の各項目をどのようにお感じですか？ アニメの内容			左上部に全体の流れを配置して、終わると消去することで、終わりまでの見通しを持ちやすくしています。このことは、児童生徒にとって有効だと思いますか？		
回答	適切	早い	遅い	適切	大きい	小さい	適切	難しい	簡単すぎる	はい	いいえ	どちらともいえない
合計	56	4	1	55	2	6	58	2	0	49	0	14
割合	91.8%	6.6%	1.6%	87.3%	3.2%	9.5%	96.7%	3.3%	0.0%	77.8%	0.0%	22.2%

4. 結果

調査1は2014年度末に実施した。職員131名に対して、回答数は67名であった。（回答率51.1%）設問によって回答しない場合があり、各質問項目での回答数の総和は67でない場合がある。

設問1「児童生徒は視覚支援のスライドに注目していますか？」は「はい」の46.2%に対して「どちらともいえない」が47.7%とほぼ同数の評価であった。

「どちらともいえない」理由が視覚支援の配慮等の不足に起因するものであるかを設問2から6までの調査で検討する。設問2「見やすいように背景は暗青色、文字は白と黄を使用していますが、このことによって児童生徒は文字が見えやすいと思いますか？」は「はい」が89.1%、設問3「文字は読みやすいように、行ごとに白と黄を交互に表示していますが、このことによって児童生徒は行が分かりやすいと思いますか？」は「はい」が60.6%、設問4「文字にはふりがなを振っていますが、このことによって児童生徒は読みやすいと思いますか？」

は「はい」が74.2%、設問5-1「児童生徒が注目するようにアニメーション効果を取り入れています。このことについて以下の各項目をどのようにお感じですか？アニメの動き」は「適切」が91.8%、設問5-2「児童生徒が注目するようにアニメーション効果を取り入れています。このことについて以下の各項目をどのようにお感じですか？画像の大きさ」は「適切」が91.8%、設問5-3「児童生徒が注目するようにアニメーション効果を取り入れています。このことについて以下の各項目をどのようにお感じですか？アニメの内容」は「適切」が96.7%、設問6「左上部に全体の流れを配置して、終わると消去することで、終わりまでの見通しを持ちやすくしています。このことは、児童生徒にとって有効だと思いますか？」は「はい」が77.8%であり、最も評価の低い設問3でも60%を超えており、視覚支援の配慮等の不足に起因するものではないことが推察される。

自由記述には「始業式・終業式などの校長先

生の話のスライドしてもらえるのでありがたい。聞こえないことが多いので」「見ている子どもにはとてもよいと思います。」「あるのと無いのとではずいぶん注目のしやすさが違うと思うので、大変だなとは思いますが、継続していただきたいと思います。」と有効性を肯定する評価が多くあった。

また、「(アニメーションは)少し複雑すぎたと思います。アニメーションはもう少し少なくとも良いのでは？個々の子供の実態に合わせた手元の支援グッズも大切だと思います。」「内容はあまり細かくなくても良いと思いました。児童生徒の中には次が何かを知ることによって安心するタイプもありますが、そういうタイプは何十メートルも先を注視することが苦手なことが多いので、手元のカードで細かく知った方が有効だと思うので、スライドは大まかでよいと思いました。いつも配慮ありがとうございます。」と手元の絵カードが必要という意見が多くあった。

「生徒席から遠いので効果はないと思われる。」と視覚支援教材の投影される位置から遠距離であるために効果がないという意見があった他は、「気持ちは文字では伝わらず、表情から伝わるものだと思います。」という意見以外に否定的な評価は見られなかった。

にもかかわらず、設問1の評価は上述のとおりであった。

2015年度には、自由記述を元に意見を取り入れた視覚支援による行事を行った後、調査2を実施した。

調査2は職員162名に対して回答数は65名であった。(回答率40.1%)設問によって回答しない場合があり、各質問項目での回答数の総和は65でない場合がある。

設問1「今年度の始業式や入学式で児童生徒は視覚支援のスライドに注目していましたか？」は「はい」が54.7%と過半数を占めた。一方、「どちらともいえない」は42.2%と調査1より若干低いものの40%以上の数値である。調査2では、「どちらともいえない」理由として「視覚支援は必要としない」があると仮説

表3 調査2 設問1～3-2

設問番号	設問1			設問2			設問3-1			設問3-2		
設問	今年度の始業式や入学式で児童生徒は視覚支援のスライドに注目していましたか？			左上部に全体の流れを配置して、終わると消去することで、終わりまでの見通しを持ちやすくしています。背景の色を赤に変更しましたが、児童生徒にとって分かりやすいと思いますか？			児童生徒が注目するようにアニメーション効果を取り入れています。昨年度に比べ少しゆっくり再生するようにしました。このことについて以下の各項目をどのようにお感じですか？ アニメの動き			児童生徒が注目するようにアニメーション効果を取り入れています。昨年度に比べ少しゆっくり再生するようにしました。このことについて以下の各項目をどのようにお感じですか？ 画像の大きさ		
回答	はい	いいえ	どちらともいえない	はい	いいえ	どちらともいえない	適切	早い	遅い	適切	大きい	小さい
合計	35	2	27	33	1	24	63	1	0	57	1	6
割合	54.7%	3.1%	42.2%	56.9%	1.7%	41.4%	98.4%	1.6%	0.0%	89.1%	1.6%	9.4%

表4 調査2 設問3-3～6

設問番号	設問3-3			設問4			設問5			設問6		
設問	児童生徒が注目するようにアニメーション効果を取り入れています。昨年度に比べ少しゆっくり再生するようにしました。このことについて以下の各項目をどのようにお感じですか？ アニメの内容			昨年度末のアンケートで「スライドを印刷したものを手元に持たせたい児童生徒がいる」とのご意見をいただきました。サーバにスライドがあって自由に印刷できると良いと思いますか？			視覚支援用スライドのノウハウを生かして通常の学習で利用したいと思えますか？			儀式行事で視覚支援のためのスライドは必要だと思いますか？		
回答	適切	難しい	簡単すぎる	はい	いいえ	どちらともいえない	はい	いいえ	どちらともいえない	はい	いいえ	どちらともいえない
合計	61	1	0	57	2	5	44	1	19	55	0	9
割合	98.4%	1.6%	0.0%	89.1%	3.1%	7.8%	68.8%	1.6%	29.7%	85.9%	0.0%	14.1%

を立てた。検証のための設問6「儀式行事で視覚支援のためのスライドは必要だと思いますか?」の結果は「はい」85.9%,「いいえ」0%,「どちらともいえない」14.1%であり視覚支援は必要であると考えられていることが示された。

設問2「左上部に全体の流れを配置して、終わると消去することで、終わりまでの見通しを持ちやすくしています。背景の色を赤に変更しましたが、児童生徒にとって分かりやすいと思いますか?」は調査1での自由記述によるを取り入れた改変であったが「はい」56.9%に対して「どちらともいえない」41.4%と低い評価であった。設問3-1から4はいずれも「適切」ないし「はい」の評価が90%程度で高評価だった。

自由記述は「始めと終わりが分かりやすかったです。もう少し位置が上にあると小さい子も見えたと思います。しかし支援の勉強になりました。ありがとうございます。」などの高評価の意見がある一方、「高等部の席からでは遠すぎて画面がよく見えません。小・中には必要なかもしれませんが高等部にとってはどちらともいえません。」「話をしている人に注目させたいと思っているので、スライドを注目しなさいと言うことはどうなのかと思っています。」「始めた当初は目新しく、見ていた児童もいたように思いますが、画像に変化がないので注目度は減っているように感じます。」など低い評価の意見もあった。

5. 考察

調査1と調査2共に、児童生徒の視覚支援スライドに対する注目は「どちらともいえない」の回答率が40%程度と極めて高かった。

しかし、視覚支援の重要性は高い評価である。また、視覚支援に対する配慮についてもおおむね高い評価である。自由記述でも「子どもたちがよく見ていました。文字が読める子は「おめでとうございます」を読んだりしていました。分かりやすいよう、様々な工夫、ありがとうございます。」「常に注目しているわけではありませんが、式の間ちょこちょこ見ている様子が見られました。絵に動きがあるので注目しやすいです。」など視覚支援スライド効果を認める意見が多く、必要ないという意見はきわめて少ない。

ただし、調査1と調査2共に、「全体向けのスライドに注目して理解できる児童生徒はそれほど多くないと思う。必要な子は手元等で個別に使用の方が効果的ではないかと感じる。」「全体の流れ(プログラム)くらいは手持ちのカードを用意すると良いと思います。(担任が作る)プログラムはあまり変わらないのでサーバにスライドを入れて子どもに応じてカードを作れると良いと思います。」など、全体のスライドよりも個別でカード形式で用意することを求める意見が多くあった。

これは手話通訳と近似している。儀式行事で聴覚障害を持つ生徒のために手話通訳者を配置したと仮定する。聴覚障害者にとって手話通訳は必要であるが、健聴者にとって必要性は薄い。しかし、聴覚障害者にとって必要であることは共通理解されているから、アンケート調査で手話通訳を否定する意見はまずないであろう。しかし、中途失聴者であれば、手話よりも文字による式次第や式辞の原稿を求めるだろう。

本調査で、視覚支援の効果自体は回答者の多くが認識している。視覚支援の有効性を高めるための配慮についても有効性を多くが認めている。しかし、具体的な「児童生徒の視覚支援スライドに対する注目」については「どちらともいえない」の回答率が高かった。

このことは、儀式行事の視覚支援が有効な知的障害児は必ずしも多くないと同時に、有効性の高い児童生徒が確実に存在することも示している。また、手元にカードなどによって視覚支援を行う方が有効性が高い児童生徒が存在することも、本調査の結果は示している。

本研究における知見は以下のとおりである。

- ①儀式行事における大型ディスプレイやプロジェクターなどによるスライドを用いた視覚支援は有効であるが、有効性の高い児童生徒の割合は必ずしも多くはない。
- ②手元での絵カード提示など、大型ディスプレイなどとは異なる視覚支援の方が有効性の高い児童生徒が一定数いる。
- ③ディスプレイの大きさ、位置、距離など物理的な配慮も重要である。